

発泡ガラス材で屋上緑化

日本建設技術
ミラクルソル 全国展開へ

日本建設技術(原裕社長、佐賀県東松浦郡)は、ミラクルソルを用いた「FWG屋上緑化工法」の全国展開に乗り出す。

ミラクルソルとは、「ガラス廃材である空きビン」を100%再資源化した発泡ガラス材であり、多孔質間隙構造を有

することから、軽量かつ保水性に優れる」(技術研究所材料研究室・安高進室長)という特徴がある。

「FWG屋上緑化工法」はこのミラクルソルを使用。平面屋上には遮水または防水マット・粗粒状のミラクルソル・植栽基盤となる培養土を使用、

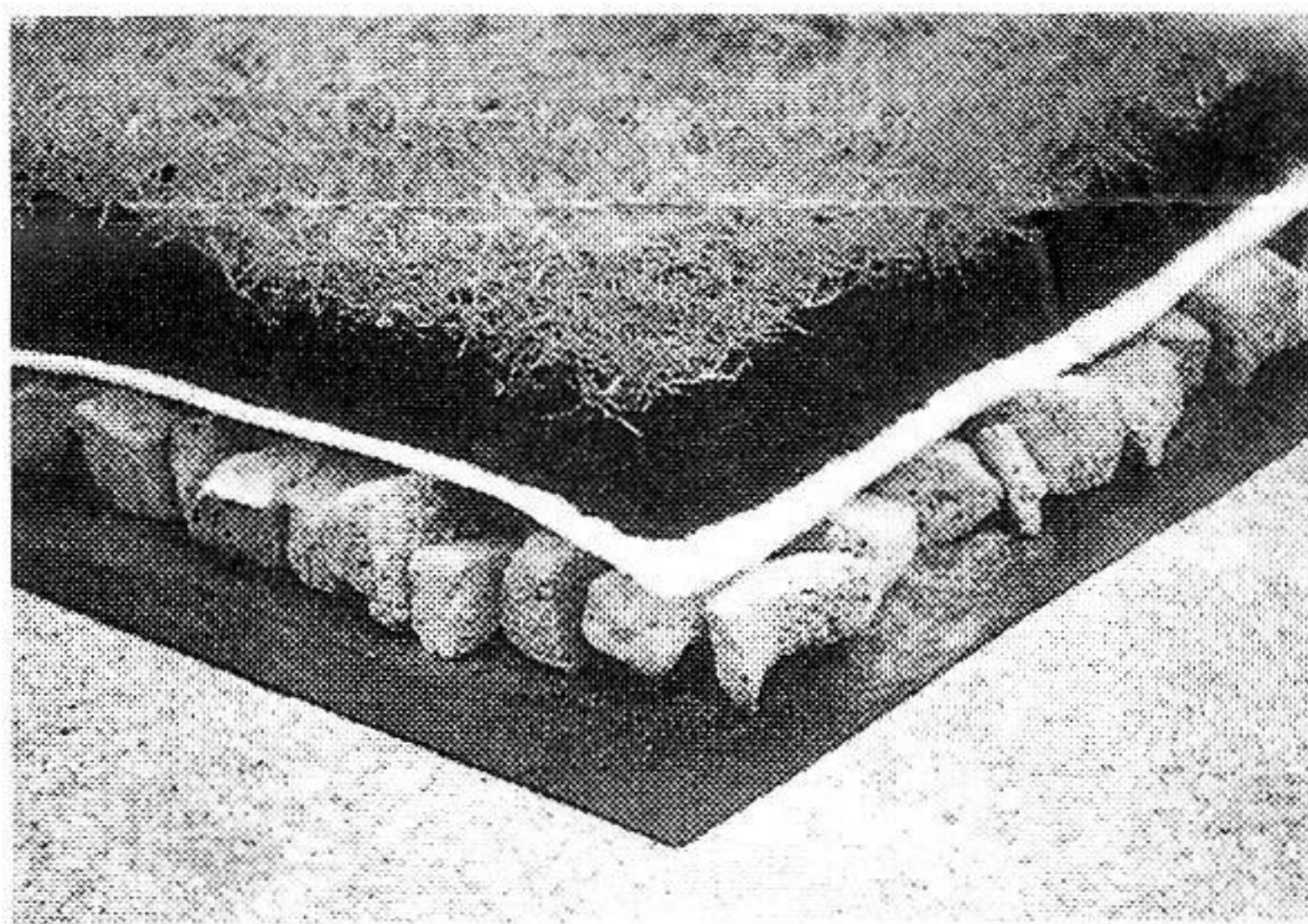
斜屋面根には遮水または防水マット・排水マット・ミラクルソルを板状にしたミラクルアワボード

・植栽基盤となる培養土を使用する。

荷重は、排水・保水層と植生マット層で厚さ55ミリの72ミとなり、1平方メートルあたり26・28・8キログラムと軽量化を実現。また、低中木の樹木を植樹する場合は、保水性に優れていることから植樹層は300ミリ500ミリとする

ことが可能になっている。

ミラクルソルはこのほか、水質浄化ろ過材、岩盤緑化、緑化防音壁、地盤改良などに利用でき、これらの技術を集約しているミラクルソル協会(東京都中央区)では、技術講習会などを開催している。



発泡ガラス材を屋上緑化に利用している

空きビンをリサイクル

同社では、ミラクルソル協会の賛助会員(全国5社)で製造・販売し、正会員(全国23社)を通じて施工を行うことで、今後「FWG屋上緑化工法」の全国展開を図っていききたい考えだ。

また現在、ミラクルソルの表面をゼオライト化し、重金属などを吸着する性能を持たせることも視野に入れている。

同商品は、佐賀県のゴミ処理センターの屋上緑化などに実績がある。